

2

「学習に関するアンケート」の分析と活用

集計用 Excel ファイルは、各設問の回答について、以下のように数値を対応させて、平均値の計算やグラフの表示などができるようになっています。

回答	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
得点	4点	3点	2点	1点

分析は、学年や学級あるいは児童生徒一人一人の数値の平均値について、その大きさや、学年全体と学級全体の平均値との関係に着目します。また、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」の各プロセスの要素の平均値のグラフ（レーダーチャート）のバランスから分析する方法もあります。

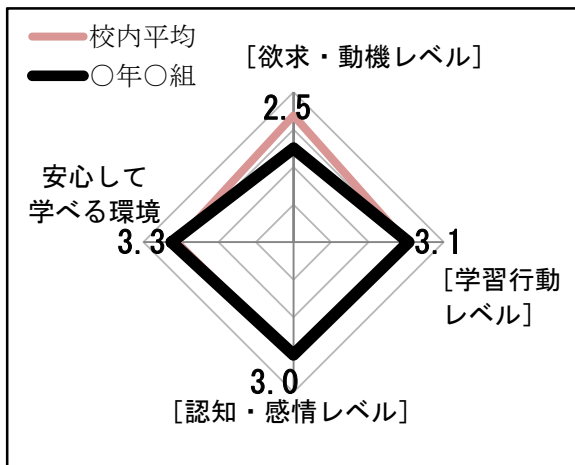
アンケートを2回行った場合には、その平均値の変化から、児童生徒の学ぶ意欲の変容を分析する必要があるでしょう。

アンケートや学級の様子を観察及び児童生徒との面談を通して、学年や学級あるいは児童生徒一人一人の意欲の実態を把握し、数値の低い要素に対して、授業や様々な教育活動等で意図的に働きかけることが有効です。

以下に、データ分析の例を示します。

【例1】学級と校内平均の比較の分析

① [安心して学べる環境と3つのプロセス]

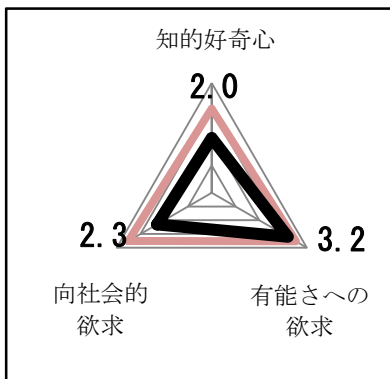


〔レーダーチャートの見方〕

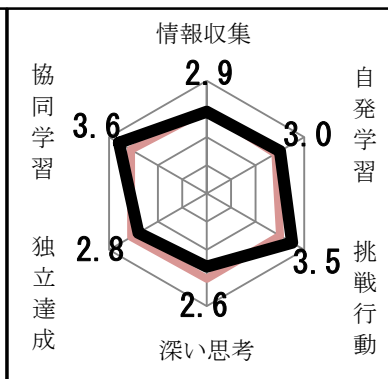
○平均値が表示される。満点は4点。
○4つのレーダーチャートが表示される。

- ①は、安心して学べる環境と各プロセスの平均値を示している。
②～④はそれぞれのプロセスの構成要素の平均値を示している。

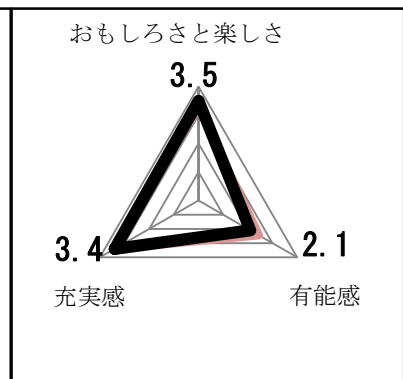
② [欲求・動機レベル]



③ [学習行動レベル]



④ [認知・感情レベル]



【分析の例】

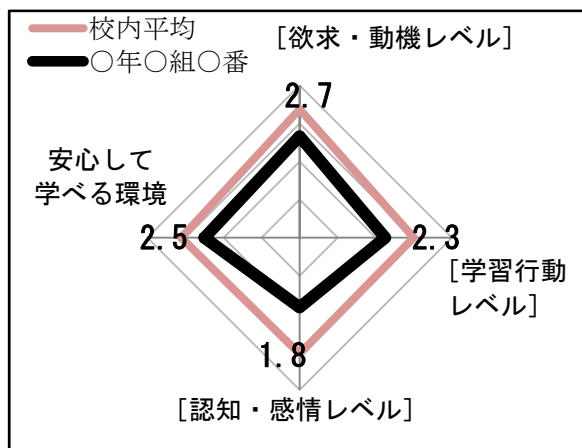
- 「欲求・動機レベル」の平均値が、校内平均と比較して低いことが見てとれる。
- 「欲求・動機レベル」の中でも「知的好奇心」や「向社会的欲求」が低い。
- 「学習行動レベル」の「協同学習」や「挑戦行動」は校内平均より高い。

【解決策の例】

- 学級の様子を観察したり、児童生徒と面談を行ったりするなどして、どのような働きかけが有効なのかを検討する必要がある。

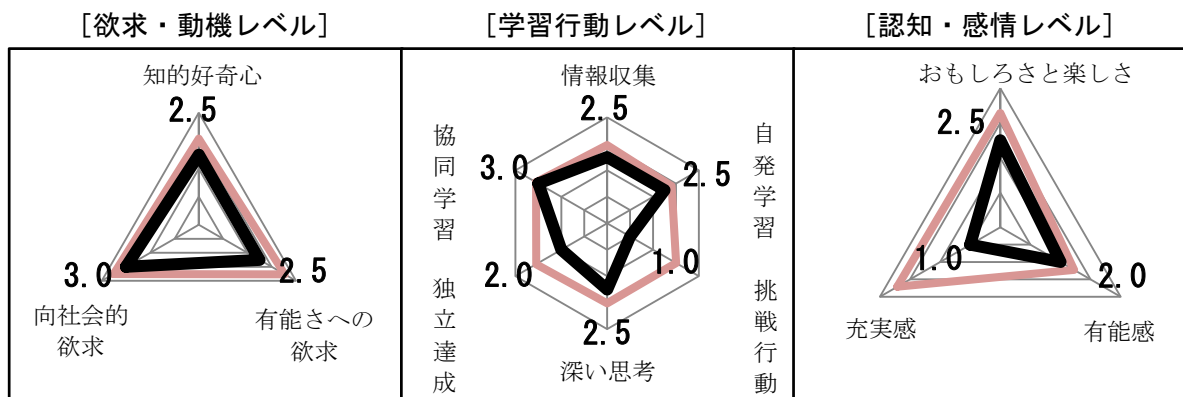
【例2】個人と校内平均の比較の分析

[安心して学べる環境と3つのプロセス]



特に配慮を要する児童生徒

- どの構成要素の数値も低い児童生徒
- 構成要素による差が大きい児童生徒
- 教師の観察とアンケートの結果の違いが大きい児童生徒



【分析の例】

- どのプロセスの平均値も校内平均より低いことが見てとれる。
- 「学習行動レベル」の「挑戦行動」と「認知・感情レベル」の「充実感」に対し、否定的な回答をしている。

【解決策の例】

- 易しい課題から取り組ませ、一つ一つスモールステップで解決させるように支援して、充実感をもたせる。

このような分析に基づいて働きかけを工夫した場合、それが児童生徒に届いたかどうかを確認するために、働きかけた後のアンケート結果をもとに、面接を行うとよいでしょう。その際に、「意欲を高める出来事がありましたか」と尋ねるなどして、児童生徒に回想させるような質問をすると、働きかけの効果が把握できるでしょう。

コラム

アンケートの結果には、授業改善のヒントが隠されていると言えます。学級や個人のデータには、授業の構成や指導の方法、言葉かけなどの傾向が影響していると考えられます。そこで、自身の授業の特徴を振り返ることが必要です。

例えば、「挑戦行動」が低いというデータが得られたとき、「基礎的な問題を全員が解決できるように指導しているが、応用問題に取り組むような働きかけが不足しているのではないか」という分析をすることによって、時には応用問題を出したり、習熟度に応じた問題を用意したりするなどの授業改善へとつなげることができます。

小学校では、学級担任が多くの教科を担当しているため、学級に応じた授業づくりの工夫がしやすいと言えますが、教科担任制の中学校、高等学校では、数名の教師が働きかけてもあまり効果は期待できません。校内研修などで、アンケート結果を学校全体で分析して共通理解を図ることで、効果的に働きかけることができます。

さらに、保護者会等で学年や学級の結果を示したり、保護者との面談で個人の結果を伝えたりして、家庭との連携を図ることも考えられます。

